



——新型コロナウイルス感染症の流行以来、働き方そのものが変化しています。小諸に本社を置く、A.Y.Judieさんの考え方を教えてください。

**香南子さん**——母の起業そのものは軽井沢で始まり、神戸や横浜に出店もしましたが、満足いく形にはなりませんでした。現在、小諸市に本社を置

いている大きな理由は、生産・製造の拠点が東信地方にあるからです。海外や国内の縫製工場に依頼したこともありましたが、モノづくりの素人であった私たちの製品を受け入れてくれ、高い品質で実現してくれるところは、なかなか見つかりませんでした。そんなときに、「私、やって

### 「なんでもマスク開発秘話」

マスク不足の状況は理解しながらも、衛生用品という未経験のジャンルに手を出しているものか、と悩んでいた順子さんと香南子さん。そんな時、「こんなのできないかな？」と小諸の内職リーダーさんがふらっと持ってきたのが、【クリップとゴムひもをホチキスでとめたもの】。

「私たちにできるのはこれだ！」と製作を即決し、一週間後には、製品発表までなんとかこぎつけたそうです。

## 「この地域だから、安心して作れる」



土屋 香南子さん

みたい！」と協力してくれたのが、母の小学校時代の同級生だったんです。そこから内職スタッフの方々が少しずつ増え、納得できる製品を製造できるようになりました。現在は、東信地方を中心に県内で50名以上の内職スタッフさんと一緒に仕事をしています。

——魂を込めたモノをしつかりと届けられれば、使ってもらえる。それを実現できるのがこの地域だったと…。

**香南子さん**——朝一夕ではできない製造網があることの安心感は代えがたいものです。人の多さや取引先本社とのやり取りなど、営業面では東京に利点があります。それでも、今はオンラインサイトで販売できますし、小諸は新幹線のアクセスも良いですね。

一つひとつのモノづくりを誠実に取り組んでくれる皆さんへの信頼が、小諸に本社を置き、今後もここで働いていきたいと思う理由です。

——コロナ禍で必要とされる製品を作られたことで、大きく注目されました。今後はどんな仕事を目標としていますか。

**順子さん**——これまでは、都会のオフィスで働く方向けの製品が多かったのですが、今回の「なんでもマスク」を作ったことで、日本中からお電話をいただきました。使う方を限定しない製品で、多くの方に喜んでいただけて、嬉しかったですね。「新しい生活様式」が求められるなか、より多くの方に必要とされるモノづくりに集中していきます。

**香南子さん**——全国から必要とされるモノを作っていきたいですね。同時に、A.Y.Judieに関わってくださる皆さんが「いつで働くことについていな」と思っていただけのような会社を目指しています。

——小諸は、県内で最初に図書館・動物園がつくられたように、チャレンジ精神の溢れる土地だと思っています。新たなチャレンジに向かう皆さんへ、エールをお願いします。

**香南子さん**——「人は、自分が思っている以上に、大きなことができる」と、私は思っています。やってみたいことを何度も言葉にしていると、思いもよらないところから手助けしてくれる人が現れます。信念をもって言葉にしていこうとがとても大切なのだと感じています。

**順子さん**——性別や役割は選べないものです。女性だからという理由であきらめないでほしいですね。私も子どもがいるなかで、周囲にあるものや周りの人々に助けってもらいながら起業しました。「ないものを求めるというよりも、その時々にあるものを、ポジティブに利用していくこと」が大切なのではないでしょうか。



### 小諸市MEMO

コロナ禍で増えている地方移住や本社移転ニーズの高まりを踏まえ、移住定住や企業誘致施策に力を入れています。新たに「ふるさと納税返礼品」として、小諸体験ツアー（3泊4日）を企画。テレワークや移住相談、休日の楽しみ方が自由に体験できる返礼品は全国初で、大きな話題を集めています。